

## (5) 中間連結財務諸表作成のための基本となる事項

### 1. 連結の範囲に関する事項

連結子会社 20社

海外14社 台湾大正製薬股份有限公司、加州大正製薬(株)、マレーシア大正製薬(株)、フィリピン大正製薬(株)、インドネシア大正(株)、ドイツ大正食品(有)、上海大正力保健有限公司、アジア大正(株)、ヨーロッパ大正製薬(株)、ベトナム大正(有)、香港大正製薬(力保健)有限公司、オソサパ大正(株)、オーストラリア大正(株)、大正R&D USA(株)

国内6社 大正厚生サービス(株)、沖縄大正製薬(株)、大正エム・ティ・シー(株)、(株)大正製薬物流サービス、メドウェル大正(株)、(株)大正ビジネス総研

非連結子会社 なし

### 2. 持分法の適用に関する事項

持分法適用の関連会社 3社

海外1社 大正ヒゾン(株)

国内2社 富山化学工業(株)、大正・サノフィ・サンテラボ製薬(株)

### 3. 連結子会社の中間決算日等に関する事項

連結子会社20社の中間決算日は、平成14年6月30日であります。中間連結財務諸表の作成に当たっては、同決算日現在の財務諸表を使用しております。ただし、平成14年7月1日から中間連結決算日である平成14年9月30日までの期間に重要な取引が生じた場合、連結上必要な調整を行っております。

### 4. 会計処理基準に関する事項

#### (1) 重要な資産の評価基準および評価方法

##### (イ) 有価証券の評価基準および評価方法

|                 |  |
|-----------------|--|
| 満期保有目的の債券       | 償却原価法  |
| その他有価証券 時価のあるもの | 中間連結決算日の市場価格等に基づく時価法（評価差額は全部資本直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定） |
| 時価のないもの         | 移動平均法による原価法  |

##### (ロ) たな卸資産の評価基準および評価方法

|                   |            |
|-------------------|------------|
| 製品、商品、半製品、仕掛品、原材料 | 総平均法による原価法 |
| 貯蔵品               | 最終仕入原価法    |

#### (2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

(イ) 有形固定資産 当社および国内連結子会社は定率法、在外連結子会社は所在地国の会計基準の規定に基づく定額法によっております。ただし、当社および国内連結子会社については、平成10年4月1日以降に取得した建物（建物附属設備を除く）については、定額法を採用しております。

(ロ) 無形固定資産 定額法を採用しております。ただし、当社および国内連結子会社では、自社利用のソフトウェアについては、社内における利用可能期間（5年）に基づく定額法を適用しております。

#### (4) 重要な引当金の計上基準

(イ) 貸倒引当金 一般債権については、貸倒実績率により、貸倒懸念債権等特定の債権については、個別に回収可能性を勘案し、回収不能見込額を計上しております。

- (ロ) 返品調整引当金 返品による損失に備えるため、将来の返品見込損失額のうち当中間連結会計期間の負担額を計上しております。
- (ハ) 賞与引当金 従業員賞与の支出に備えるため、将来の支給見込額のうち当中間連結会計期間の負担額を計上しております。
- (ニ) 退職給付引当金 従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当中間連結会計期間末において発生していると認められる額を計上しております。数理計算上の差異は、当該事業年度に生じた額について、平均残存勤務年数内の一定の年数（16年）に基づく定額法により翌事業年度より費用処理することとしております。
- (ホ) 役員退職慰労引当金 役員の退職慰労金の支出に備えるため、内規に基づく中間連結会計期間末要支給額を計上しております。

(5) 重要な外貨建の資産又は負債の本邦通貨への換算の基準

外貨建金銭債権債務は、中間連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。なお、在外子会社等の資産及び負債は、中間連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は少数株主持分及び資本の部における為替換算調整勘定に含めております。

(6) 重要なリース取引の処理方法

リース物件の所有権が借主に移転すると認められるもの以外のファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理方法によっております。

(7) 重要なヘッジ会計の方法

ヘッジ会計の方法

原則的処理方法である繰延処理を採用しております。

ヘッジ手段とヘッジ対象

- ・ヘッジ手段

デリバティブ取引（為替予約取引及び金利スワップ取引）

- ・ヘッジ対象

相場変動等による損失の可能性があり、相場変動等が評価に反映されていないもの及びキャッシュ・フローが固定されその変動が回避されるもの。

(8) その他中間連結財務諸表作成のための重要な事項

消費税等の会計処理

消費税等の会計処理は税抜き方式によっております。

連結調整勘定の償却に関する事項

連結調整勘定はその効果の及ぶ合理的な期間で均等償却しております。

5. 中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

中間連結キャッシュ・フロー計算書における資金（現金及び現金同等物）は、手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

## 会計処理の変更

### (役員退職慰労引当金の計上)

役員退職慰労金について、従来、支出時の費用として処理しておりましたが、当期より内規に基づく中間連結会計期間末要支給額を計上する方法に変更しました。

この変更は、当中間期に内規の整備を行ったこと、また、役員退職慰労引当金の計上が会計慣行として定着しつつあることを踏まえ、将来の役員退職慰労金支出時における一時的な負担の増大を避け、役員の在任期間にわたって費用分配することにより、財務内容の健全化及び期間損益の適正化を図るために行うものであります。

この変更により、過年度相当分は特別損失に、当中間連結会計期間相当分は販売費及び一般管理費に計上しております。この結果、従来と同一の基準を採用した場合と比べ、営業利益並びに経常利益は44百万円少なく、税金等調整前中間純利益は1,335百万円少なく計上されております。

## 追加情報

### (自己株式及び法定準備金取崩等会計)

当中間連結会計期間から「企業会計基準第1号 自己株式及び法定準備金の取崩等に関する会計基準」(平成14年2月21日企業会計基準委員会)を適用しております。この変更に伴う損益に与える影響はありません。

なお、中間連結財務諸表規則の改正により、当中間連結会計期間における中間連結貸借対照表の資本の部については、改正後の中間連結財務諸表規則により作成しております。